

### 1 単元名 日本の道具のおすすめカードを作ろう

教材名「ふろしきは、どんなぬの」（東京書籍2年上）

### 2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元の重点指導事項であるC(1)エ「文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと」を指導するため、言語活動例C(2)ウ「事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと」と関連付けて「日本の道具の便利さについて説明した文章を読み、「道具売り場に置くおすすめカードを作る活動」を単元を貫いて位置付けた。これにより、児童は「お客さんが買いたくなるようなカードを作る」という目的意識を明確にして、主体的に教材を読む学習に取り組むことができるようになると思われる。

### 3 単元について

#### (1) 児童観（男\*人女\*人 計\*人）

① 児童の読書傾向から 説明文を好んで読書している児童	*人
② 既習の学習状況から 文中から大事な言葉や文を抜き出せる児童	*人

本学級の児童は、進んで読書に親しんでいる。しかし、クイズの本や字が少ない本などを好む傾向があり、説明文などじっくり読んでいる児童は少ない。

既習単元「たんぼぼ」では、たんぼぼの仕組みについて話のまとまりや時間的な順序に気をつけて、書かれていることの内容を読み取り、ノートに視写したり、感想を発表したりした。文中から大切な言葉を書いたりすることは、だいたいできていたが、語句の意味がわからないため読み取れない児童がいた。

#### (2) 教材観

本教材は、「ふろしき売り場のカード」と「本に掲載されたふろしきに関する文章」との二つの文章を比べて読む活動を通し、説明の仕方や文章の構成などの表現方法に着目しながら読む能力を育てることができる。

売り場のカードは箇条書きの文、本からの引用の文章は「始め・中・終わり」で構成された説明的な文章である。この2種類の文と文章とを比べることで、日本で昔から使われ、親しまれている道具の便利さを観点ごとに紹介していく方法に気付かせるとともに、相手や目的に応じて説明の仕方に違いがあることを学ばせるのに適した教材である。

#### (3) 指導観

本単元では、「説明文を読み内容をよく理解し、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと」C(1)エが確実に実現できるようにしていく。この活動は、要旨をまとめる活動につながるものとする。

そこで、「お客さんが買いたくなるような日本の道具の商品のおすすめカードを作る」言語活動を行っていく。

実際の授業の中では、「ふろしき」を説明した売り場カードの文と本の文章と比べて読む。カードと本の文章では、おかれている場の状況を確認する。そして、その場の状況に応じて、書き手と読み手の意図を読み取り、なぜ説明の仕方にちがいがあるのかを明らかにする。そうすることで、相手や目的に応じた説明の仕方に気付かせるとともに、その違いの必要性を理解させる。

また、カードの内容は、本から大事なところを抜き出した文章であることにも気付かせかせ、「おすすめカード」の文を書くための手本とさせたい。二つの文の関係がよく分かるように、板書や掲示を工夫していきたい。

最後に、教師が用意した三つの日本の道具の説明文から大事なことを箇条書きにしておすすめカードを作る言語活動を取り入れ、目的に応じて説明文の大事な言葉に着目して読み取るための基礎を養えるように指導していきたい。

#### 4 単元の目標

関心・意欲・態度 目的意識を明確にして、異なる形式の説明文を読もうとしている。

読むこと 説明文の中から道具の便利さを伝える言葉を的確に抜き出して、箇条書きにまとめることができる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。

#### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>「お客さんが買いたくなるようなおすすめカードを作る」という目的意識を明確にして、説明文と箇条書きを読み比べている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明文と箇条書きの共通点と相違点を目的の違いと関連付けながら説明している。</li> <li>説明文の中から、他の道具と比べて特に便利な点を短く表した言葉を抜き出して、箇条書きにまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>的確な言葉を用いることにより、道具の構造や使い方、便利さなどを効果的に伝えることができることに気付いている。</li> </ul>

#### 6 単元の指導計画 (10時間扱い) ○数字が本時

時	主な学習活動	主な評価
1 2	昔からのの道具を見たり、使ったりして、「説明文を読み好きな商品のおすすめカードを書いて紹介しよう」という目的意識をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本からの道具について関心を持ち、進んでおすすめカードを作ろうとしている。(関心・意欲・態度)</li> </ul>
3 7	おすすめカードの作り方を知らなくために教科書の二つの説明文を読み比べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明文と箇条書きの共通点と相違点を目的の違いと関連付けながら説明している。(読む能力)</li> <li>的確な言葉を用いることにより、道具の構造や使い方、便利さなどを効果的に伝えることができることに気付いている。(言語についての知識・理解・技能)</li> </ul>
⑧ 10	好きな道具を選び説明文から好きな商品のおすすめカードを作って紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明文の中から、他の道具と比べて特に便利な点を短く表した言葉を抜きだして、箇条書きにまとめている。(読む能力)</li> </ul>

#### 7 本時の学習

(1) 目標 説明文の中から文章の中の大事な言葉や文を書き抜いて、箇条書きのおすすめカードを作ることができる。

(2) 準備・資料

日本の道具の説明文(児童用・掲示用)、カード用のワークシート、話し合いボード三つ

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="233 300 764 412" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>おきやくさんがかいたくなるカードを作るには、どんなことばをぬき出せばいいのかな。</p></div> <p>2 自力解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>自分が選んだ説明文を読み、書き抜きたい言葉や文にサイドラインを引く。</li></ul> <p>&lt;予想される児童の反応&gt;</p> <div data-bbox="233 819 764 1301" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>○せんすについて</p><ul style="list-style-type: none"><li>あおいで風をおくるれます。</li><li>小さくおりましためます。</li><li>とてもきれいです。</li></ul><p>○麦わらぼうし</p><ul style="list-style-type: none"><li>つよいひざしをさえぎります。</li><li>あせをかいてもむれません。</li><li>もちほこびがらくです。</li></ul><p>○ざしきぼうし</p><ul style="list-style-type: none"><li>かんたんにはこりがとれます。</li><li>電気をつかいません。</li><li>かるくてだれでももてます。</li></ul></div> <p>3 同じ道具を選んだ者同士のグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>友達と違うところはないか。</li><li>本当に大事な言葉はどちらか。</li></ul> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <div data-bbox="233 1895 764 2007" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>他の道具と比べて特に便利な点を短く言い表した言葉を抜き出せばよい。</p></div>	<ul style="list-style-type: none"><li>本物を見せて、児童の意欲が高まるようにする。</li><li>道具については、事前に決めておくようにする。</li><li>「ふろしき」について学習した説明文とカードを見直して、説明文から道具の便利なところを選んで書き抜きすることを伝え、課題解決の見通しが持てるようにする。</li><li>説明文をじっくり読むため一人読みするようにする。</li><li>三つの文があるが、少なくとも一つは見付けられるよう励ましながら机間指導をする。</li><li>どれくらい便利かを表している言葉に線が引けない児童には、説明文の段落の最初の文に注意して読み、詳しい説明は書かないように助言する。</li><li>早く終わってしまった児童には、他の道具のおすすめカードも書くようにし進んで活動できるようにする。</li><li>友達との相違点を中心に話し合うよう指示する。</li><li>グループの話し合いは拡大文にまとめ発表に使えるようにする。</li><li>話し合いがまとまったグループは、個別の形態に戻って、簡条書きに整理する活動に入るよう指示する。</li><li>㊦ 説明文の中から、他の道具と比べて特に便利な点を短く表した言葉を抜き出している。</li><li>グループで迷っているところがある時には全体で意見交換する。</li><li>「新たに気付いたこと」、「できるようになったこと」をノートにメモする。</li></ul>